

シュロ *Trachycarpus fortunei* (Hook.) H.Wendl.

ヤシ科 *Arecaceae*

1. 利用可能部位

葉柄基部の繊維

気根 (?)

2. 組織形態：

〔葉柄基部の繊維〕 シュロの葉の葉柄基部の両側から剛直な繊維が斜め上と斜め下の2方向に発生しネット状になる (A)。この繊維は細長く、先端に向かって細くなる。表面には縦に長い細胞が見え、時に半円球状の突起があり、縦列に並ぶ (B)。繊維の断面形は維管束のある側がやや出っ張った楕円形～円形で、太いもので長径 0.6～0.4mm、短径 0.4～0.3mm ほど、先に行くと細くなる (C～E)。太いものには中心から向軸側に1本の維管束がある。木部は5～8本の道管からなり、篩部は繊維の中心側にあるが目立たない (E)。大部分を繊維組織が占め、繊維細胞は厚壁で径が小さい。細い繊維では維管束は縮小し、ついには無くなり、繊維細胞のみからなる (D)。

〔気根〕 幹下部から茎の組織を破って気根 (不定根) が多数出る。気根は地面に達すると普通の根になる。気根の横断面は円形、直径は2mm ほど、表皮は毛を密生する。中央に断面円形の維管束が1本ある。皮層は厚く、気根全体の7割くらいを占める。皮層内側には通気組織が発達している (F)。

3. 利用例

- ・たわし、ブラシ、シュロ縄など

4. 遺跡出土遺物

- ・静岡県青木原遺跡 (近世) の報告書 (静岡県埋蔵文化財調査研究所「青木原遺跡Ⅱ」2011) の図版 19 木製品 (下駄 1) 掲載の No.241 下駄の鼻緒 (植物種未報告)
- ・東京都新宿区南元町遺跡 (近世) : 刷毛、箒、たわし、下駄の鼻緒など多数 (国際文化財株式会社「東京都新宿区南元町遺跡Ⅲ」2015)
- ・東京都新宿区若葉町三丁目遺跡 (近世) : たわし、縄紐 (加藤建設株式会社「東京都新宿区若葉三町女遺跡Ⅲ」2016)

図説明

A:葉柄基部のシュロ繊維。上方に向いて出る繊維と下方を向いて出る繊維で網目になっている。B:一本の繊維。縦長の表皮細胞には半円球状の突起列がでるものがある。C:繊維の横断面。断面は多くは楕円形。太いものには維管束がある。D: 繊維の横断面の拡大。細い繊維は繊維細胞のみからなり、維管束はない。E:1本の太い繊維。向軸側に維管束があり、この維管束の木部には8本の道管があり、篩部は中心付近にある。背軸側に繊維組織が発達する。F:気根の横断面。大部分を皮層組織が占め、皮層の内側には通気組

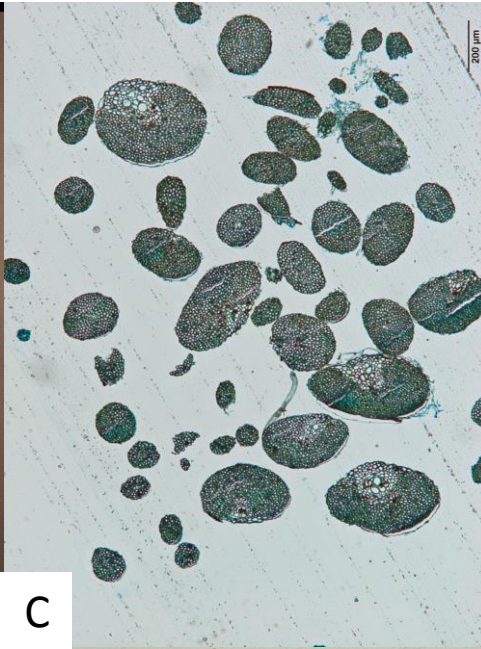
織が発達する。中心に内皮に包まれて1本の維管束があり、断面が丸い後生木部道管が9本、同心円状に並んでいる。



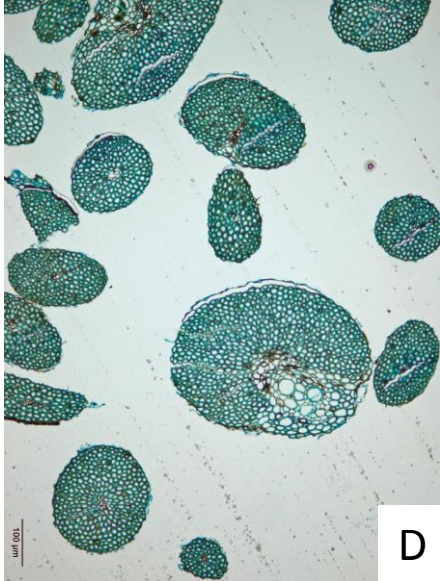
A



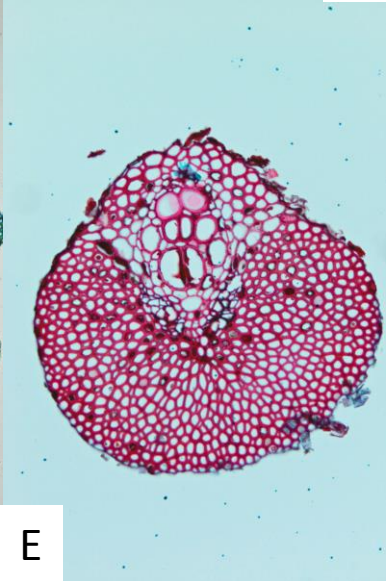
B



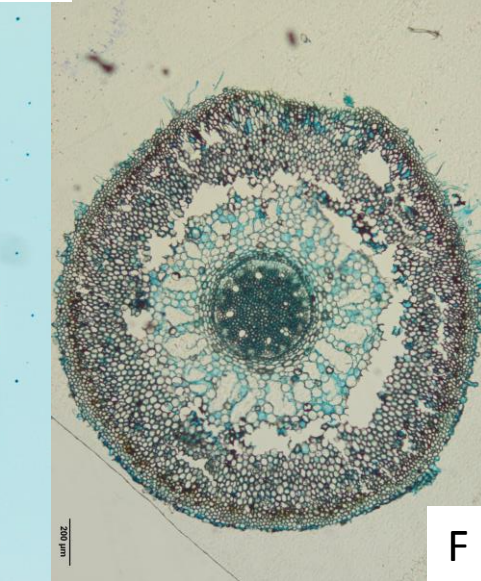
C



D



E



F